

1 佐布里池

碑文表 佐布里池
 昭和 40 年 5 月
 愛知県知事 桑原 幹根
 建設者 愛知県



裏面

この佐布里池は、中部経済圏の一大躍進の願いをこめて 昭和 40 年 5 月 われわれの父祖伝来の地に完成した

思えば 昭和 34 年その計画を知った 232 名の関係地主は、対策同盟会を結成しこの重大事に対処してきた

土地は 農民の命である しかし この池の築造は愛知県営工業用水道のかなめである苦悩 協議 交渉の結果 昭和 38 年 8 月 耕地山林約 120 ヘクタール 水没家屋 2 戸の補償が県との間に妥結した

今 池をみるにおよび 万感こもごもつきるところもない

ここに その経緯をしるし 周辺地域の発展と我々住民の幸福を祈る

昭和 40 年 5 月

概要

目的 名古屋南部臨海工業地帯に供給する工業用水の調整池

事業主体 愛知県

事業着手 昭和 38 年 9 月

事業完了 昭和 40 年 5 月

事業費 約 2.4 億円

水源 木曾川（愛知用水）

満水面積 61.2 ヘクタール

本堤 型式 中心コア式アースダム

堤高 2.1 m

堤頂長 180 m

堤体積 約 273 万立方メートル

流入工 最大流入量 11.5 トン/秒

取水塔 最大取水量 6.0 トン/秒

余水吐 最大放流量 5.0 トン/秒



2 佐布里池記念碑



碑文（表）

佐布里池記念碑

観る者はこの景致に風騒の情念を逞くし 想う者はこの水庫を利用の遍満を冀う
 嬉観る者想う者として己がじしその志を伸べしめられた佐布里調整池対策同盟会の諸氏
 竣工して今に至る二十星霜諸氏の対県折衝の努力と決断 奉仕への献身と労作を偲び
 且はその徳を称えて労に報い 且はこの池の隆運を祈って ここにこの碑を建立する

早川甚三 撰

昭和 61 年 3 月

佐布里池竣工 20 周年記念実行委員会

碑文（裏）

佐布里池調整池対策同盟会

役員御芳名

昭和 35 年 9 月 ダム設置反対同盟

委員長	阿知波清秋	副委員長	伊藤太市	鱈部好一	新海 正
役員	伊藤俊平	伊藤保一	伊藤金蔵	伊藤有録	伊藤鋤二

昭和 36 年 8 月 ダム設置反対同盟

委員長	鱈部益男	副委員長	前役員留任	
役員	伊藤 清	加藤金光	加藤清孝	神谷義隆

昭和 37 年 5 月 佐布里調整池設置反対同盟会

会長	加藤啓三	副会長	鱈部正二	
役員	新海直之	新海丈一	新海繁次	新海幸英

昭和 37 年 9 月 佐布里調整池対策同盟会

役員	富田鋼平	富田好博
----	------	------

昭和 39 年 2 月 佐布里調整池対策同盟会

会長	小西富英	副会長	阿知波九一	
役員	富田淺二	深谷啓三	鱈部謙三	鱈部好敏

石匠 山本益郎

3 愛知用水神社（佐布里池湖畔）



左 愛知用水水利観音堂 右 愛知用水神社



神社手前から見る佐布里池の梅林

管理者 愛知用水神社・愛知用水観音奉賛会 愛知用水土地改良区
祭神

主神	熱田大神（守護神）	熱田神宮
相殿神	1．罔象女神（水を主掌）	丹生川上神社（中社）
同	2．水分神（流水の疎通分配を主掌）	吉野水分神社
同	3．高竈神（雨を主掌握）	丹生川上神社（上社）
同	4．埴山媛神（土を主掌）	波爾布神社

4 愛知用水観音堂

御本尊 水利観音
合祀 五十六霊位

建立の経緯

受益者百年の夢であった愛知用水事業は昭和 32 年 11 月愛知用水公団の手によって着工され、関係者の絶大な御支援と御協力を得て昭和 36 年 12 月完成致しました。

爾来十四年間、この用水は尾張東部丘陵地帯より知多郡全域に亘る関係二十三市町における社会、経済及び文化発展の原動力となって参りました。

今後も、この地域がこの用水により更に一層の繁栄を続けることは関係者の切なる願いであります。

またこの四年間の工事期間中には、五十六名の方々が建設の尊い犠牲となりました。

用水の恩恵を受ける者と致しましては、五十六霊位を合祀し今後末永くその霊をなくさめ、また感謝の誠を捧げたいと思っております。

この様な願望を実現するため、昭和 48 年 1 月、有志からなる愛知用水記念堂建立委員会が発足致しまして、広く浄財が募られました。

愛知用水土地改良区はこの委員会の要請を受け、昭和 50 年 3 月通常総代会において寄付財源により愛知用水神社と愛知用水水利観音堂を建設することに決定しました。

その後直ちに専門委員会を設け計画について種々検討の上、現在の建築様式を定め、用地は用水ゆかりの地、佐布里池湖畔とし、同年 8 月建設に着手し昭和 51 年 3 月竣工致しました。

愛知用水神社五祭神は夫々御本社から御神札を受け同年 5 月 18 日午前、現地にご遷座され、水利観音も同時に愛知用水観音堂に入仏され、犠牲者も合祀されました。



建設の規模

用地面積	371.29㎡
神社建坪	2.56坪
神社高さ	4.58m
観音堂建坪	2.56坪
観音堂高さ	4.72m
建設費	千九百万円

水利観音の御本尊像の制作と寄進者

制作	常滑市	柴山 清 風 先生
寄進	知多市	久野 庄太郎 氏



毎年、愛知用水神社・水利観音春季祭、秋季大祭として殉職者の法要が行われております。(写真は平成18年11月1日)

駐車場から坂道を登ると愛知用水神社へ



神社内の石 水源地に感謝の意



5 水源感謝の碑

建立年月日 昭和60年5月

碑文(表)

水源感謝の碑 桑原幹根 書



碑文(裏)

愛知用水沿革

夢の用水といわれた 愛知用水の歴史は 同時に地域発展ののあゆみであり 総合用水としてその機能を遺憾なく発揮し 名実ともに地域の動脈としてその発展に大きく貢献してきた。

昭和 36 年 10 月通水以来二十四か年を経過した今日愛知用水の施設・機能回復安定供給をはかるため改修事業が計画され 昭和 56 年度幹線水路 昭和 59 年度より支線水路が愛知用水二期事業として水資源開発公団より推進されることとなった。

この時 愛知用水一期事業以来の先人たちの偉業を称え 改めて水源に思いをはせ水源地域の人々に感謝し、その心の子々孫々に伝えるため 愛知用水神社ならびに同水利観音像を祀るこの地にその由来をそえ感謝の碑を建立する。

建設の概要

昭和 23 年 6 月	地元有志により愛知用水計画実現運動開始
昭和 23 年 10 月	愛知用水期成会結成
昭和 26 年 12 月	国土開発法に基づく木曾特定地域指定
昭和 27 年 1 月	世銀農業調査団来日
昭和 36 年 10 月	通水開始
昭和 40 年 10 月	佐布里池完成
昭和 49 年度	愛知用水二期事業調査開始
昭和 57 年度	同事業の幹線水路着手
昭和 60 年度	同事業に支線水路追加採択



愛知用水神社同観音堂建立由来

昭和 51 年 3 月建立

用水の恩恵を受ける者として豊かな水が行末永く流れることに願いを込め、用水神社を建立するとともに併せて工事期間中の犠牲者五十六霊位・関係物故者を合祀する観音堂を建立した。

愛知用水神社 主神	熱田大神	熱田神宮	名古屋市熱田区
相殿神	岡象女神	丹生川上社中社	奈良県東吉野村
〃	水分神	吉野水分神社	奈良県吉野町
〃	高竈神	丹生川上神社神社	奈良県川上村
〃	埴山媛神	波爾布神社	滋賀県新旭町

愛知用水観音堂本尊水利観音

合祀殉職者五十六霊位・関係物故者

昭和 60 年 5 月 18 日 勲 5 等 浅井啓吉 書
池上勝次 刻

愛知用水奉賛会有志一同建立

6 高松宮御植樹

碑 高松宮殿下 御植樹
同 妃殿下

愛知用水神社、水利観音が完成。高松宮殿下、妃殿下をお迎えし、式典が行われた。

昭和 51 年 5 月 18 日

